

臨床研究センター

臨床研究センター長 是恒之宏

当臨床研究センターもセンターとなって5年目を迎えた。国立病院機構では平成17年度より新たな研究業績評価が開始されたが、当院は平成18年度2位以外は常に1位を獲得している。この業績評価は、治験、臨床研究プロトコル作成、特許の取得、競争的研究費の獲得、論文著書、国内外の学会発表などの総合力で分析される。日常臨床が多忙を極める中で、治験を含めた臨床研究への積極的な大阪医療センターの取り組みが評価されたものと考えられる。平成20年度より、当院および九州医療センターはその業績を認められ、臨床研究部から臨床研究センターへランクアップとなった。それにともない、組織は1部5室から2部9室と改変し、それまで治験管理センターとして病院内の組織であった治験管理部門を新たに臨床研究も含めた支援室、臨床研究推進室として研究センターの元におくこととなった。平成23年度からは、新たに高度医療技術開発室、レギュラトリーサイエンス研究室を開設し、3部11室となった。これまでと同様、文部科研に応募を希望する医師については、併任発令を行い、これに対応した。また、院内の多くの医師が臨床研究に携わっていること、本部からの研究助成金を研究業績に応じて一部分配することにより研究推進を図る目的で、平成18年度より医長以上の併任、英文論文筆頭著者併任をおこなうこととしている。

平成24年度の構成は以下のとおりである。

先進医療研究開発部

幹細胞医療研究室

幹細胞医療研究室では、ヒトiPS細胞（人工多能性幹細胞）を用いて、再生医療の実現化に向けた技術開発研究を実施している。神経疾患の再生医療実現を目指し、iPS細胞から臨床グレードの神経幹細胞（ニューロンやグリア細胞を供給する能力を持った幹細胞）へと誘導する方法の開発を進めている。また、神経疾患患者の検体からiPS細胞を樹立し、神経幹細胞の誘導及び神経系細胞への分化を行い、疾患発症機序の解明にも取り組んでいる。

再生医療研究室

再生医療研究室では、各種幹細胞および免疫細胞等のヒト細胞を応用した「細胞治療」を新しい先進的な医療として確立させることを目標に、治療に使用する各種ヒト細胞の培養・加工プロセスの開発、治療用ヒト細胞の品質管理並びに安全性評価に関する技術開発などの研究を行っている。また、ヒト幹細胞を応用した薬剤毒性評価系の開発と新規治療薬候補化合物の探索を目指した基礎的研究を実施している。さらに悪性脳腫瘍の分子診断体制を構築するための多施設共同研究体制の構築を実施した。

分子医療研究室

分子医療研究室の主な研究課題は、先天性水頭症の分子遺伝学的研究（X連鎖性遺伝性水頭症における神経接着因子LICAM遺伝子解析、分子生物学・幹細胞生物学の手法を用いた水頭症発症の分子メカニズムの解明）と胎児期水頭症の診断と治療ガイドライン確立（胎児期水頭症の診断と治療のガイドライン第2版策定、胎児期水頭症の英語版発行）である。今年度特に力を入れて取り組んだ研究課題は、難治性脳形成障害症の患者由来検体の収集とその遺伝子解析及び臨

床像解析の多施設共同研究の体制強化である。

エイズ先端医療研究部

海外同様、わが国、特に大阪でも HIV 感染症患者数は増え続けており、毎年、新規 HIV 感染者、エイズ患者数は増加の傾向にある。治療の進歩によって HIV 感染症の予後は大きく改善されたが、エイズ医療では多くの課題が未だ残されている。約 20 年以上前に血液製剤で感染した患者の多くは C 型肝炎との重複感染であり治療が困難な例が多い。その後、増えている性感染症としての HIV 感染症患者では 20 歳代、30 歳代が多く、社会的、経済的に不安定な者も少なくなく、セクシャリティーなどマイノリティーでの課題も抱えている。当研究室では、この様な多くの課題の中で、HIV 感染症治療、エイズ医療の分野を中心とした研究を進め、主に厚生労働科学研究費補助金エイズ対策事業、財団法人友愛福祉財団の調査研究事業、独立行政法人国立病院機構の共同研究等に取り組んできた。エイズ先端医療研究部はエイズ先端医療開発室（白阪が室長を兼務）と HIV 感染制御研究室（渡邊大室員）から成り、前者は医療についての研究、後者は基礎的研究を主に行っている。服薬アドヒアランスの向上・維持に関する研究班、HIV 感染症及びその合併症の課題を克服する研究班では分担研究者と共に HIV 感染症のチーム医療の在り方、エイズ看護の在り方、長期療養の問題等と取り組んで来た。今後もエイズの治療と医療に付き研究を進める。

EBM 研究開発部

臨床疫学研究室

臨床疫学研究室では、臨床疫学・アウトカムリサーチの実施基盤を確立し、データの集積・解析を行いつつエビデンスを形成し、コストベネフィットを解析する形態の臨床研究を行っている。特に循環器・消化器疾患診療に関する薬剤・機器臨床試験等、当院の政策医療である循環器病・肝臓病の診療に役立つ臨床研究を推進している。平成 24 年度も厚生労働科研、国立病院機構共同研究などの公的助成や民間助成を得て、1) C 型肝炎治療薬テラプレビル[®]の腎機能障害機序の検討、2) リバビリンによる貧血予防のためのエリスロポエチン介入試験、3) 核酸アナログ耐性 B 型肝炎例に対するテノホビルの介入試験を行い、成果をあげている。

がん療法研究開発室

現在、がん治療においては、オーダーメイド医療という語に代表されるように、各個人のがんの種類や病態の特徴に応じた医療が行われるようになってきた。病気や病態の違いは分子異常の違いによって生じており、それを利用した遺伝子診断や分子標的治療も行われるようになってきた。本研究室では、がん患者から得られた血液や組織を利用してがんにおける分子異常を探り、それに基づいた新たながんの診断や治療戦略の開発をめざした translational research を行うとともにその臨床応用めざしている。具体的には、基礎研究との有機的な共同研究により、1) 臨床材料を用いた網羅的遺伝子解析や網羅的ペプチド蛋白解析、糖鎖解析を利用した発がん、増殖、転移に関わる責任分子の抽出、同定と治療応用可能標的分子の確認。2) 分子異常に基づいた新たな腫瘍マーカーの開発。3) 抗がん剤や放射線治療の感受性や耐性に関与する分子の分離とその臨床応用。さらに実臨床においてこれまでの基礎研究や臨床研究によって得られた成果を応用した全国規模の大規模多施設共同臨床試験に積極的に参加するとともに自主的臨床試験研究の企画を

行っている。

高度医療技術開発室

近年、診断や治療における先端医療技術にはめざましいものがあり、その研究開発は日進月歩である。本研究室では、先端医療機器開発のための基盤研究、より高度で最先端の診断技術の開発、先端医療技術の共同開発による低侵襲手術の実現などをテーマに、大阪大学医学部とも連携を図り研究開発をおこなっている。

医療情報研究室

医療情報研究室では、医療へのIT応用に関するソフト、ハードの両側面の研究を行っている。整形外科領域におけるシミュレーションを用いた研究、病院において実稼働している病院情報統合システムを用いた研究、病院情報システム本体の機能拡張に関する独自の研究を実施する一方、治験・臨床研究や医療安全に関するシステムの検討、シミュレーションや統計などの情報科学の医療応用に関する研究を行っている。また、ネットワーク技術や画像処理技術の応用・改良など、情報処理の基盤技術に関連した研究も行っている。

臨床研究センター直轄研究室

臨床研究推進室

臨床研究推進室は、GCP省令施行に伴い、治験の円滑な実施とその質を保証することを目的として平成11年4月に「治験管理センター」として開設され、本年度で14年目を迎えている。平成20年度からは臨床研究部が臨床研究センターに昇格したのを機に、「治験管理センター」から「臨床研究推進室」へと新たに組織および名称変更を行った。

臨床研究推進室には「治験管理部門」「臨床試験支援部門」があり、治験管理部門では従来同様、治験事務局、IRB事務局の役割を兼ねるとともに、臨床研究コーディネーター（CRC）は治験・製造販売後臨床試験の開始から終了まで支援を行っている。臨床試験支援部門では今年度より医師主導臨床研究においてCRCによる支援を行っている。

レギュラトリーサイエンス研究室

レギュラトリーサイエンスは、「我々の身の回りの物質や現象について、その成因と実態と影響とをよりの確に知るための方法を編み出す科学であり、次いでその成果を使ってそれぞれの有効性と安全性を予測・評価し、行政を通じて国民の健康に資する科学」と定義づけられている。狭義には規制基準や行政に関連した規制科学あるいは行政科学の側面があるが、今日のような不確実な状況において規制施策や対策を推進していく場合には、その時点での最新の科学技術や科学知識を総動員して適正に評価し運用することはもちろん、自然科学的合理性だけでなく、社会科学側面での解析も必要とされるようになってきた。本研究室では医師、医療従事者のみならず他分野の研究者、知識人との連携・協力により特に、再生医療、細胞治療、遺伝子治療といった先端医学、ゲノム科学をとりいれた臨床研究、あるいは新たな感染症対策などの分野において、最新の科学的技術・知識に基づく予測・評価を行うとともに、社会との調和を図ることをテーマとしている。

【2012 年度研究発表業績】

A-0

Yamashita T., Koretsune Y., Yasaka M., Inoue H., Kawai Y., Yamaguchi T., Uchiyama S., Matsumoto M. and Ogawa S Randomized, Multicenter, Warfarin-Controlled Phase II Study of Edoxaban in Japanese Patients With Non-Valvular Atrial Fibrillation Circ J 2012;76:1840-1847 2012.8

Hori M., Matsumoto M., Tanahashi N., Momomura S., Uchiyama S., Goto S., Isumi T., Koretsune Y., Kajikawa M., Kato M., Ueda H., Iwamoto K., Tajiri M., on behalf of the J-ROCKET AF study investigators Rivaroxaban vs. Warfarin in Japanese Patients With Atrial Fibrillation -The J-ROCKET AF Study- Circ J;76:2104-2111 2012.9

Hori M., Matsumoto M., Tanahashi N., Momomura S., Uchiyama S., Goto S., Isumi T., Koretsune Y., Kajikawa M., Kato M., Ueda H., Iwamoto K., Tajiri M., on behalf of the J-ROCKET AF study investigators Safety and Efficacy of Adjusted Dose of Rivaroxaban in Japanese Patients With Non-Valvular Atrial Fibrillation – Subanalysis of J-ROCKET AF for Patients With Moderate Renal Impairment Circ L;77:632-38,2013(25 Feb 2013)

A-2

是恒之宏 経口抗トロンビン薬 あなたも名医！新しい経口抗凝固薬、どう使う？（心房細動を診るジェネラリストのために） 日本医事新報社 p81-84 2012.8.25

是恒之宏 抗凝固療法の展望 不整脈学 南江堂 p387-390 2012.9.25

是恒之宏 循環器疾患の最新医療 先端医療技術研究所 p262-265 2012.10

是恒之宏 抗凝固療法の管理・指導 今日の循環器疾患治療指針 医学書院 p857-859 2013.1.1

A-4

是恒之宏 ガイドライン(2008年改訂版)にみる非弁膜症性心房細動の血栓塞栓症リスク評価 Mebio 株式会社メジカルビュー社 p27-32 Vol.29 No.4 2012

井上博 内山真一郎 是恒之宏 矢坂正弘 山下武志 ダビガトランの適正使用に向けて Thrombosis Scope 株式会社インターサイエンス社 p2-6 Vol.4 2012.4

是恒之宏 Antithrombotic Therapy in Atrial Fibrillation – Evaluation and Positioning of New Oral Anticoagulant Agents –(Ogawa S, et al: Circ J 75: 1539-1547,2011)のポイント Thrombosis Scope 株式会社インターサイエンス社 p11-12 Vol.4 2012.4

是恒之宏 ガイドラインをどう読むか24 ESC 心房細動治療ガイドライン Vascular Medicine 先端医学社 p52-55 Vol.8 No.1 2012.4

是恒之宏 新規抗凝固薬はどうなっているか 治療 南山堂 p1053-1098 Vol.94 2012.6

後藤信哉 大森司 是恒之宏 寺山靖夫 新規経口抗凝固薬を語る medicina 医学書院
p1058-1068 Vol.49 No.6 2012.6

是恒之宏 ワルファリン対照試験を読み解く際の留意点ーTTR の重要性ー Pharma Medica メディ
カルレビュー社 p105-109 vol.30 No.6 2012.6

是恒之宏 最初の大規模臨床試験 SPORTIF medicina 医学書院 p976-979 Vol49 No.6 2012.6

是恒之宏 新規経口抗凝固薬使用にあたってリスクに基づいた適応の層別化をどう考えるか? 内科
南江堂 p22-25 Vol.110 No.1 2012.7

是恒之宏 心原性脳塞栓症予防のパラダイムシフト 心電図 日本心電学会 p202-204 Vol.32 No.2
2012.6

是恒之宏 赤尾昌治 岡崎修 門田一繁 ダビガトランの処方経験から見えたこと Pharma Medica
メディカルレビュー社 p137-142 Vol.30 No.7 2012.7

是恒之宏 新規経口抗凝固薬使用にあたってリスクに基づいた適応の層別化をどう考えるか? 内科
南江堂 p22-25 Vol.110 No.1 2012.7

是恒之宏 新規抗凝固薬のハンドリング Medical Tribune MT ahead 株式会社メディカルトリビュー
ン p4 2012.8.9

井上博 Stuart J.Connolly 是恒之宏 内山信一郎 座談会: CHADS₂スコア 1点の非弁膜症性心房細
動患者における抗凝固療法 Medical Tribune 株式会社メディカルトリビューン p36-37 2012.8.23

山下武志 是恒之宏 新原生塞栓症予防: ワルファリンとダビガトラン The Heart Today 2012 株式
会社メディカルトリビューン p1 No.3 2012.9.16

是恒之宏 新規抗凝固薬の特徴 Therapeutic Research ライフサイエンス出版株式会社 p1299-1301
Vol.33 No.9 2012.9.30

是恒之宏 心房細動患者におけるアピキサバンとワルファリンの比較試験 (ARISTOTLE 試験) 脳
と循環 メディカルレビュー社 p69-73 Vol.17 No.3 2012.9

是恒之宏 医師が語る処方箋の裏側「抗凝固薬の切り替え時に「併用」が必要なケースとは」 日経
ドラッグインフォメーション DI 日経 BP 社 pPE012 2012.10

是恒之宏 心房細動における脳塞栓発症のリスク評価とその対策 Geriatric Medicine (株)ライフ・サイエンス p1145-1Vol.50 2012.10

是恒之宏 心房細動患者における脳塞栓予防のための抗凝固療法－新規抗凝固薬を中心に－ モダンフィジシャン 株式会社新興医学出版社 p1189-1200 Vol.32 No.9 2012.10

是恒之宏 新規抗凝固薬の薬理作用－overview－ Heart View メジカルビュー社 p26-32 2012.12

是恒之宏 新規経口抗凝固薬とワルファリンの位置づけ MEDICAMENT NEWS 株式会社ライフ・サイエンス p7-8 No.2105 2012.11.15

是恒之宏 抗血小板薬と抗凝固薬の併用、是か非か Cardiovascular Frontier メディカルレビュー社 p30-34 Vol.3 No.6 2012.12

是恒之宏 ESC 心房細動管理 GL Japan Medicine Monthly 株式会社じほう p11 No.36 2013.1

是恒之宏 “安全”の認識先行にクギ、新規抗凝固薬アピキサバンの適正使用を強調 MTPro (医師のための専門情報サイト) 2013.2.13

是恒之宏 各種血栓性疾患に対する新規経口抗凝固薬の適応 CURRENT THERAPY 2013.3.1

是恒之宏、池田隆徳、志賀剛、Ezekowitz MD. 心房細動の抗凝固療法におけるダビガトランの位置づけ、日米の改訂ガイドラインを比較して 日経メディカル開発 http://medical.nikkeibp.co.jp/all/special/focus-af_anticoag/global/no7/ 2013年2月7日

B-1

是恒之宏 The New Era of Oral Anticoagulant Therapy for Patients with Non-valvular Atrial fibrillation The 29th Annual Meeting of the International Society for Heart Research Japanese Section 平成24年10月26日 九州大学 福岡県

是恒之宏 Callenges in Clinical Trials in Japan – from Investigators’ point of view 9th DIA Japan Annual Meeting 平成24年11月20日 都市センターホテル 東京都

B-3

是恒之宏 新規抗凝固薬の特徴 第37回日本脳卒中学会総会 平成24年4月27日 福岡国際会議場 福岡県

是恒之宏 心房細動における新規経口抗凝固療法 第4回 Bayer Thrombosis Seminar 第34回日本血栓止血学会学術集会 平成24年6月7日 ハイアットリージェンシー東京 東京都

是恒之宏 新規抗凝固薬を展望する ダビガトランについて 第 27 回日本不整脈学会学術大会 平成 24 年 7 月 6 日 パシフィコ横浜 神奈川県

是恒之宏 心房細動マネージメント 他にリスク因子を持たない 75 歳以上高齢者への抗凝固療法は... (行う) 第 27 回日本不整脈学会学術大会 平成 24 年 7 月 7 日 パシフィコ横浜 神奈川県

南口仁 南野哲男 小室一成 奥山裕司 南都伸介 北風政史 是恒之宏 日吉康長 山田貴久 長谷川新治 日常診療下での心房細動症例における脳卒中発症頻度と CHADS₂スコア、CHA₂DS₂-VAScスコアの有用性：多施設観察研究 (STACIN 研究) より 第 27 回日本不整脈学会学術大会 平成 24 年 7 月 7 日 パシフィコ横浜 神奈川県

堀正二 松本昌泰 棚橋紀夫 百村伸一 内山真一郎 後藤信哉 和泉徹 是恒之宏 非弁膜症性心房細動患者に対するリバーロキサバンの CHADS₂スコア別安全性、有効性の検討 J-ROCKET AF サブ解析 第 27 回日本不整脈学会学術大会 平成 24 年 7 月 7 日 パシフィコ横浜 神奈川県

堀正二 和泉徹 内山真一郎 後藤信哉 是恒之宏 棚橋紀夫 松本昌泰 百村伸一 非弁膜症性心房細動患者に対するリバーロキサバンの安全性・有効性の検討—J-ROCKET AF 試験における年齢別の部分集団解析 第 60 回日本心臓病学会学術集会 平成 24 年 9 月 15 日 ANA クラウンプラザホテル金沢 金沢県

是恒之宏 新規経口抗凝固薬ダビガトランの優位性 第 60 回日本心臓病学会学術集会 平成 24 年 9 月 15 日 ANA クラウンプラザホテル金沢 金沢県

是恒之宏 新しい抗凝固薬の使い方 第 60 回日本心臓病学会学術集会 平成 24 年 9 月 15 日 ANA クラウンプラザホテル金沢 金沢県

奥山裕司 南口仁 南野哲男 北風政史 是恒之宏 日吉康長 山田貴久 長谷川新治 南都信介 小室一成 日常臨床におけるダビガトラン既存用量使用困難例の割合とその特徴—多施設心房細動レジストリー (STACIN 研究) より— 第 29 回日本心電学会学術集会 平成 24 年 10 月 12 日 幕張メッセ国際会議場 千葉県

B-4

小野恭子 石山薫 土井敏行 木島かおり 北川智子 辻本有希恵 柚本育世 多和昭雄 楠岡英雄 是恒之宏 治験実施状況の評価—治験手続き、組み入れスピードの全国平均との比較 第 12 回 CRC と臨床試験のあり方を考える会議 平成 24 年 9 月 2 日 大宮ソニックシティ 埼玉県

三浦弘之 古川哲生 小出雅雄 篠内和也 坂口大起 宮崎宏一 濱野剛 小濱康明 北田博一 廣岡慶治 安村良男 是恒之宏 楠岡英雄 急性心不全治療における worsening renal function の規定因子の検討 第 60 回日本心臓病学会学術集会 平成 24 年 9 月 15 日 ANA クラウンプラザホテル金沢 金沢県

小出雅雄 古川哲生 坂口大起 篠内和也 三浦弘之 宮崎宏一 濱野剛 小濱康明 北田博一 廣岡慶治 安村良男 是恒之宏 楠岡英雄 うっ血は腎機能を悪化させる：急性心不全患者での検討
第 60 回日本心臓病学会学術集会 平成 24 年 9 月 15 日 ANA クラウンプラザホテル金沢 金沢県

是恒之宏 Atrial fibrillation and the GARFIELD Registry in Japan 第 29 回日本心電学会学術集会 平成 24 年 10 月 13 日 幕張メッセ国際会議場 千葉県

南口仁 奥山裕司 南野哲男 北風政史 是恒之宏 日吉康長 山田貴久 長谷川新治 南都信介 小室一成 心房細動における脳卒中発症頻度と CHADS₂スコア, CHA₂DS₂-VSc スコアの妥当性：他施設観察研究 (STACIN 研究) より 第 29 回日本心電学会学術集会 平成 24 年 10 月 13 日 幕張メッセ国際会議場 千葉県

是恒之宏 ブルーノ・ロッシ 岩本和也 エドワード・ワン アンディ・スタンクス マルコ・ディボネベンツラー ジャン・バティスト・ブリエール 日本の心房細動患者における治療実態－Japan National Health and Wellness Survey (NHWS)を用いた検討－ 第 29 回日本心電学会学術集会 平成 24 年 10 月 13 日 幕張メッセ国際会議場 千葉県

北川智子 石山薫 柚本育世 三賀森美央 辻本有希恵 木島かおり 小野恭子 土井敏行 多和昭雄 楠岡英雄 是恒之宏 臨床研究支援の在り方に関する検討－事務局・CRC 双方の視点から－ 第 33 回日本臨床薬理学会学術総会 平成 24 年 11 月 29 日 沖縄コンベンションセンター 沖縄県

B-5

是恒之宏 心房細動における抗血栓療法－新規経口抗凝固薬の評価と位置付け－ 第 225 回日本循環器学会関東甲信越地方会

B-6

三浦弘之 古川哲生 坂口大起 篠内和也 宮崎宏一 濱野剛 小出雅雄 北田博一 安部晴彦 廣岡慶治 楠岡英雄 安村良男 増田慎三 是恒之宏 当院におけるトラスツマブ投与後の心機能障害に関する検討 第 114 回日本循環器学会近畿地方会 平成 24 年 12 月 15 日 大阪国際会議場 大阪府

三浦弘之 古川哲生 坂口大起 篠内和也 宮崎宏一 濱野剛 小出雅雄 北田博一 安部晴彦 廣岡慶治 楠岡英雄 安村良男 増田慎三 是恒之宏 薬剤性心筋症に対するカルベジロール内服を中止しえた症例 第 114 回日本循環器学会近畿地方会 平成 24 年 12 月 15 日 大阪国際会議場 大阪府

B-8

是恒之宏 心房細動患者における抗血栓療法－新規経口抗凝固薬の評価と位置づけ－ 平成 24 年 4 月 3 日 名古屋クレストンホテル 愛知県

是恒之宏 プラザキサの処方経験から見えたこと 平成 24 年 4 月 6 日 ザ・ペニンシュラ東京 東京

都

是恒之宏 抗凝固療法中の頭蓋内出血を回避するためのアプローチ プラザキサ全国学術講演会 平成24年4月7日 ザ・プリンス・パークタワー東京 東京都

是恒之宏 新規抗凝固薬への期待と課題 ストップ!NO 卒中プロジェクト第5回エリアエキスパート会議 平成24年4月8日 シェラトン都ホテル大阪 大阪府

是恒之宏 心房細動患者における抗血栓療法 SPAF MEETING in KURUME 平成24年4月9日 萃香園ホテル 福岡県

是恒之宏 心房細動に対する抗血栓療法ー新しい展開ー 第19回鹿児島集中治療研究会 平成24年4月14日 城山観光ホテル 鹿児島県

是恒之宏 心房細動における抗血栓療法 抗血栓療法カンファレンス 平成24年4月16日 ホテルオークラ神戸 兵庫県

是恒之宏 心房細動における抗血栓療法ー抗凝固薬を選択できる時代がやってきたー 中越ヒルナーヘルツ研究会 平成24年4月20日 ニューオータニ長岡 新潟県

是恒之宏 心房細動患者における抗血栓療法の最新話題 抗凝固療法学術講演会 平成24年4月21日 リーガロイヤルホテル大阪 大阪府

是恒之宏 心房細動における抗血栓療法ー抗凝固薬を選択できる時代がやってきたー イグザレルト錠新発売記念講演会 平成24年4月26日 伊丹シティホテル 兵庫県

是恒之宏 心房細動における抗血栓療法ー抗凝固薬を選択できる時代がやってきたー 東葛地区脳卒中予防研究会 平成24年5月7日 浦安ブライトンホテル 千葉県

是恒之宏 新規抗凝固薬への期待と課題 ストップ!NO 卒中プロジェクト全国一斉エリア会議 平成24年5月9日 ホテルグランヴィア大阪 大阪府

是恒之宏 日本のエビデンス J-ROCKET AF リバーロキサバン新発売記念公園 平成24年5月12日 ホテルオークラ神戸 兵庫県

是恒之宏 心房細動における抗血栓療法ープラザキサ発売一周年を迎えてー 城南地区プラザキサ学術講演会 平成24年5月18日 目黒雅叙園 東京都

是恒之宏 心房細動患者における抗血栓療法ー適正に、安全に薬剤を使用するためにー 堺薬剤師会 平成24年5月19日 堺市薬剤師会館 大阪府

是恒之宏 心房細動における抗血栓療法ー抗凝固薬を選択できる時代がやってきたー イグザレルト錠新発売記念講演会 平成 24 年 5 月 22 日 ホテルオークラ福岡 福岡県

是恒之宏 心房細動における抗血栓療法ー抗凝固薬を選択できる時代がやってきたー 長崎循環器連携セミナー 平成 24 年 5 月 25 日 ホテルニュー長崎 長崎県

是恒之宏 脳梗塞予防におけるプラザキサの位置づけ 第 3 回 National AF Summit 平成 24 年 6 月 2 日 ANA インターコンチネンタルホテル東京 東京都

是恒之宏 心房細動における抗血栓療法ー抗凝固薬を選択できる時代がやってきたー 東信循環器疾患研究会 イグザレルト新発売特別講演会 平成 24 年 6 月 15 日 小諸グランドキャッスルホテル 長野県

是恒之宏 心房細動患者における抗血栓療法の最新話題 Anticoagulation Forum 平成 24 年 6 月 16 日 ウェスティンホテル東京 東京都

是恒之宏 心房細動における抗血栓療法ー抗凝固薬を選択できる時代がやってきたー イグザレルト錠新発売記念講演会 平成 24 年 6 月 22 日 リーガロイヤルホテル小倉 福岡県

是恒之宏 抗凝固療法の新たな時代の幕開け Brain & Heart Attack Forum 平成 24 年 6 月 23 日 帝国ホテル大阪 大阪府

是恒之宏 心房細動における抗血栓療法ー抗凝固薬を選択できる時代がやってきたー イグザレルト新発売講演会 平成 24 年 6 月 25 日 米子全日空ホテル 鳥取県

是恒之宏 心房細動における抗血栓療法ー抗凝固薬を選択できる時代がやってきたー 西宮市内科医会循環器カンファレンス 平成 24 年 6 月 29 日 ノボテル甲子園 兵庫県

是恒之宏 心房細動における抗血栓療法の新時代 第 51 回埼玉県高血圧研究会 平成 24 年 6 月 30 日 大宮ソニックシティホール 埼玉県

是恒之宏 心房細動における抗血栓療法ー抗凝固薬を選択できる時代がやってきたー 川西市病診連携医療カンファレンス 平成 24 年 8 月 9 日 アステ川西 兵庫県

是恒之宏 心房細動に対する抗血栓療法ー薬剤を選択できる時代がやってきたー 第 5 回一関不整脈研究会 平成 24 年 9 月 7 日 ベリーノホテル一関 岩手県

是恒之宏 心房細動における抗血栓療法ー新規経口抗凝固薬時代を迎えてー 中河内地区病診連携カンファレンス 平成 24 年 9 月 20 日 シェラトン都ホテル大阪 大阪府

是恒之宏 心房細動における抗血栓療法ー抗凝固薬を選択できる時代がやってきたー イグザレルト錠新発売記念講演会 平成 24 年 9 月 24 日 大分オアシスタワーホテル 大分県

是恒之宏 心房細動における抗血栓療法ー新しい経口抗凝固薬をどう使うー 循環器学術セミナー 平成 24 年 10 月 6 日 リーガロイヤルホテル堺 大阪府

是恒之宏 心房細動における抗血栓療法ー新規経口抗凝固薬時代を迎えてー ハートリズムカンファレンス 平成 24 年 10 月 26 日 ホテルオークラ 福岡県

是恒之宏 日本の心房細動患者さんのためにプラザキサについて考える Prazaxa Expert Conference 平成 24 年 10 月 27 日 ベルザール汐留 東京都

是恒之宏 心房細動患者における抗血栓療法～適正に、安全に薬剤を使用するために～ 抗凝固療法学術講演会 平成 24 年 10 月 30 日 ラマダホテル大阪 大阪府

是恒之宏 1次予防の立場からプラザキサを考える 心房細動による脳卒中予防の新展開 平成 24 年 11 月 17 日 神戸国際会議場 兵庫県

是恒之宏 心房細動における抗血栓療法ー抗凝固薬を選択できる時代がやってきたー 第 44 回和歌山県医師会医学会総会 平成 24 年 11 月 18 日 和歌山東急イン 和歌山県

是恒之宏 Afにおける抗血栓療法ー新規経口抗凝固薬の選択と 第 7 回新潟循環器疾患 EBM 研究会 平成 24 年 11 月 24 日 ホテル日航新潟 新潟県

是恒之宏 心房細動に対する経口抗凝固薬療法ー新規経口抗凝固薬時代を迎えてー Gastroenterology & Cardiology Joint Conference 平成 24 年 11 月 26 日 第一三共株式会社札幌支店 北海道

是恒之宏 心房細動における抗血栓療法～新規経口抗凝固薬の最新の話～ 大阪抗凝固療法 Network Meeting 平成 24 年 12 月 6 日 ヒルトン大阪 大阪府

是恒之宏 心房細動における抗血栓療法ー抗凝固薬を選択できる時代がやってきたー 第 38 回和歌山東臨床研究会 平成 24 年 1 月 12 日 ダイワロイネットホテル和歌山 和歌山県

是恒之宏 脳卒中予防の重要性～疫学から治療の重要性まで～ エキスパートセミナー 平成 25 年 1 月 19 日 六本木アカデミーヒルズ 東京都

是恒之宏 心房細動患者における抗血栓療法ー新しい経口抗凝固薬時代を迎えてー 第 250 回四日市循環器懇話会 平成 25 年 1 月 29 日 四日市都ホテル 愛知県

是恒之宏 ワルファリンと新規経口抗凝固薬、どう使い分ける？ 第 6 回心房細動トータルマネージ

メントフォーラム 平成 25 年 2 月 9 日 ベルサール汐留 東京都

是恒之宏 心房細動における新規経口抗凝固薬について 日本心臓病学会 教育セミナー 平成 25 年 2 月 10 日 グランキューブ大阪 大阪府

是恒之宏 アピキサバン発売プレスセミナー 東京 平成 25 年 2 月 12 日

是恒之宏 心房細動患者における抗血栓療法～循環器の立場から考える～ 日医生涯教育協力講座
セミナー心房細動と脳梗塞 平成 25 年 2 月 16 日 愛媛県医師会館 愛媛県

是恒之宏 心房細動における抗血栓療法－新規抗凝固薬を実臨床にどう活かすか－ SPAF Expert Meeting 平成 25 年 2 月 19 日 ヒルトンホテル大阪 大阪府

是恒之宏 新規抗凝固療法の可能性～ARISTOTLE 試験で裏付けられたアピキサバンの有効性と安全性～ エリキュース新発売記念 WEB シンポジウム 平成 25 年 2 月 20 日

是恒之宏 心房細動を対象とした新規経口抗凝固薬の治験に係わって 第 7 回北摂コラボレーション
ミーティング 平成 25 年 2 月 23 日 たかつき京都ホテル 大阪府

是恒之宏 心房細動における抗血栓療法-新規抗凝固薬を実臨床にどう活かすか- 平成 25 年 3 月 28
日 スイスホテル南海大阪

是恒之宏 ARISTOTLE 試験結果からみるエリキュースの可能性と臨床応用への課題 エリキュース
新発売記念講演会 in 大阪 平成 25 年 3 月 31 日 リーガロイヤルホテル 大阪府